

傷ついた心つなぐ合唱

レクイエム・プロジェクト

仙台・来月 震災題材 市民ら100人

自然災害や戦争で傷ついた人たちの心をつなぐ市民参加型の合唱コンサート「レクイエム・プロジェクト」の仙台公演が5月3日、仙台市青葉区の電力ホールである。宮城で生まれた詩に、プロジェクト主宰者・上田益さん(あべ)が作曲した混声合唱組曲「なつかしい未来へ」などを取り上げる。

被災地などの詩人と上田さんが創作した合唱作品を現地で上演するプロジェクトは、阪神大震災後の2008年、神戸市で始まった。東日本大震災の被災地がその後加わり、現在は仙台、神戸、東京など全国5カ所で継続的に活動する。

仙台公演には、仙台を中心とする全国のレクイエムプロジェクトの参加者、仙台市長町中、五橋中、広瀬中合唱部など総勢約100人が参加。上田さん、仙台

市の佐賀慶子さんが指揮を務める。

曲目は、宮城県名取市のローカルジャズ・アーティスト寺島英弥さんが、取材で出会った人々の声や思い、情景をつづった詩を基にした「なつかしい未来へ」(2025年初演)、混声合唱曲集「また逢える、いのちの日々をかさねて」(21年同)、今回初演される震災で亡くなった子を思う「風吹く夜の子守歌」など。

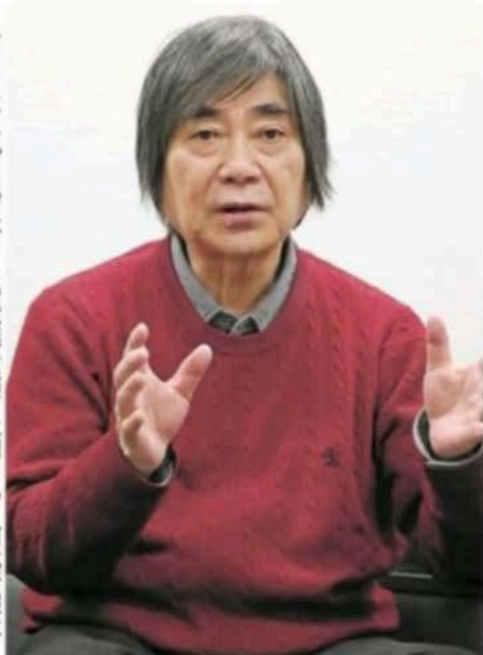
「なつかしい未来へ」は、震災以前からそこに暮らしている人の傷ついた心がテーマ。街並みが復興を遂げる一方で置き去りにされがちであり、土地の記憶や住民の思いの大切さを訴える。

上田さんは「国内はもとより、世界的にも類をみないプロジェクトだ。それぞれの地域の思いを共有し、互いに伝え合うことに意義がある」と語る。

主催者は、コンサートで発表する、震災犠牲者への追悼と記憶のメッセージを募っている。集まったメッセージは、後日上田さんが合唱曲にする予定。

午後2時半開演。入場料1500円(当

レクイエム・プロジェクトの意義を話す上田さん(河北新報社)



日5000円増し)、小学生無料。メッセージは200字以内で、4月12日まで郵送またはメール inori@music.nift.ky.jp に申し込む。連絡先は事務局米田さん(090-3648) 18698。

(佐藤素子)



被災地で生まれたオリジナルの合唱曲を歌い上げたレクイエム・プロジェクト仙台公演

昨年4月